

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道 (東金茂原道路)	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局 東日本高速道路(株)						
起終点	自：千葉県東金市丹尾 至：千葉県茂原市石神	延長	21.6km								
事業概要											
<p>首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、東京都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、首都圏全体の道路交通円滑化や機能の再編成等を図る目的の事業である。</p> <p>東金茂原道路は、現在事業中である圏央道（茂原～木更津）に接続し、東京湾アクアライン、館山自動車道及び千葉東金道路と連絡することとなり、千葉県と東京都及び神奈川県とを結ぶ広域的な高速交通ネットワークを形成されるとともに、房総半島における新たな自動車専用道路として、地域の活性化並びに地域間の交流及び連携の強化を図り、地域経済及び産業の発展に寄与するとともに、国道128号等が担っている幹線交通を当該区間が分担することにより、国道128号等の交通混雑の緩和及び交通事故の軽減が図られ、安全かつ円滑な交通の確保に寄与する道路である。</p>											
H13年度事業化		H11年度都市計画決定		H16年度用地着手							
H16年度工事着手											
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">全体事業費</td> <td style="width: 25%;">約1,168億円</td> <td style="width: 25%;">事業進捗率</td> <td style="width: 25%;">43%</td> <td style="width: 25%;">供用済延長</td> <td style="width: 25%;">-km</td> </tr> </table>						全体事業費	約1,168億円	事業進捗率	43%	供用済延長	-km
全体事業費	約1,168億円	事業進捗率	43%	供用済延長	-km						
計画交通量：20,400～21,300台/日											
費用対効果分析結果		総費用 ：(残事業)/事業全体 651/1,125億円		総便益 ：(残事業)/事業全体 1,540/1,540億円							
B/C：(事業全体) 1.4 (残事業) 2.4		事業費：489/963億円 維持管理費：162/162億円		走行時間短縮便益：1,260/1,260億円 走行費用減少便益：172/172億円 交通事故減少便益：108/108億円							
基準年		平成22年									
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施											
交通量：B/C=2.2～2.6(交通量±10%) 事業費：B/C=2.2～2.6(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.0～2.8(事業期間±20%)											
事業の効果等											
(1) 高速ネットワークの形成											
・圏央道千葉県区間は、東関東道と交差し東京湾アクアラインに連絡し、千葉県内の高速道路ネットワークを形成。沿線にある成田空港は、世界の空港における貨物取扱量第3位であり、成田空港の発着容量は今年から22万回/年に増え、将来は30万回/年に拡大する方針が決定。航空貨物需要が多い東京・横浜方面については、圏央道・アクアライン経路により貨物輸送の分散化・円滑化が図られ、国際競争力の強化も期待される。											
(2) 交通混雑の緩和											
・並行区間である国道128号の交通渋滞は全国平均の約3倍。圏央道の整備により渋滞の緩和が図られる。											
(3) 安全安心な通行の確保											
・並行区間である国道128号の死傷事故率は、全国平均の約2倍にあたる区間が多数存在。圏央道の整備により交通の円滑化図られ事故の減少が期待される。											
関係する地方公共団体等の意見											
千葉県知事からの意見：											
圏央道は、本県の地域経済の活性化、観光立県の推進などに寄与する極めて重要な道路であり、県では圏央道の効果を県内各地へ広く波及させるためアクセス道路の整備を積極的に推進している。さらに、沿線地域では開通を悲願としているので、事業の継続は必要と考える。ついては、開通目標に基づいた事業の推進を図られたい。											
千葉市長からの意見：											
首都圏中央連絡自動車道は、首都圏における道路交通の円滑化、環境改善、沿線都市間の連携強化、防災対策等としての機能などの重要な役割を担っており、また、本事業の当該区間は、房総地域の幹線道路として、地域の発展に大きく貢献すると考えられることから、開通目標年度に完成するよう確実な整備を図られたい。											
事業評価監視委員会の意見											
・事業の継続を承認する。											
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等											
圏央道（木更津東IC～木更津JCT間）開通（平成19年3月供用）											

事業の進捗状況、残事業の内容等

用地取得率は約99%であり、土地収用法も活用しながら用地取得を図る。
工事については、暫定2車線での整備を行い、道路の整備効果の早期発現を図る。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成24年度の暫定2車線供用予定。道路の整備効果の早期発現を図り、その後、全線4車線完成に向け事業を促進させる。

施設の構造や工法の変更等

早期供用を図るべく2車線を先行整備し、その後完成4車線化を進める方法に変更。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。